

# つながるスイッチ!!

久留米市社会福祉協議会

vol.14

支え合い推進会議

—その⑩—

「善導寺校区」の  
取り組み



## 第3次善導寺校区 福祉活動計画の策定

支え合い推進会議の取り組みを紹介していくシリーズ第10弾。今回は「善導寺校区」をご紹介します。

善導寺校区社会福祉協議会

会長 中村 英治さん

善導寺地区民生委員児童委員協議会

前会長 金子 美恵子さん

ふれあい善導寺

会長 赤木 民憲さん

善導寺校区は令和3年度末、第3次善導寺校区福祉活動計画を策定しました。前計画は、「コミュニティ振興会の健康福祉部会で策定していましたが、今回は、振興会事務局や自治会等の意見も反映させるため、支え合い推進会議の場を活用して策定しました。それにより、今までの福祉視点に地域づくりの視点も加わった内容に仕上がりました。「前計画を尊重しながら、改めて内容を検討し、完成させました」と中村さん。「前計画に災害対策などの新しい分野も加え、今の時代に合った計画をつくりました」と金子さん。

この計画の推進には、2つの特長があります。1つ目は、達成度を単年度ごとに評価し、次年度以降の計画を見直す仕組みを次のとおり取り入れたことです。

- ① 年度初めの運営協議会（各団体の集まり）で、計画内容について説明。
  - ② 各団体は計画に基づいて取り組みを実施し、その達成度を年度末に評価。
  - ③ 各団体は計画内容の見直しについて意見があれば提案。
  - ④ 各団体から提出された評価結果や意見を支え合い推進会議で報告・整理し、さらにその内容を運営協議会でも報告。
- 「前計画は策定後、評価する機会がなく、校区の現状について把握が出来ていませんでした。作って終わりではなく、次につなげていくために、短期間ごとに評価できる仕組みを作りました」と中村さん。「それぞれが自分の団体の活動を振り返るため、一人ひとりの意識が高まります。頑張りが評価されるとやる気が出て、活動が楽しくなると思います」と、金子さんは話されました。
- 2つ目は、計画の概要版を「福祉防災マップ」との1体型で作成し、全世帯に配布したことです。表面に令和4～8年度までの取り組み目標を掲げ、裏面は、避難所や医療機関、公共施設などを載せた校区マップになっています。
- 「計画冊子を配布しても、見てもらえない。福祉防災マップがついていたら、目に留まる所に置いてもらえるのではないかと考えました」と中村さん。「校区の中でも浸水しやすい場所と、そうでない場所があるため、地震、水害、台風など災害ごとに避難所が異なります。どの災害の時にどこに避難するのか載せているので、分かりやすいと評判です」と金子さんは話します。

## 計画策定後の 取り組み

計画策定を進める中で、校区の課題もみえてきました。「新たなことに取り組むことも大事だが、今、急いで対応すべき困りごととはほとんどない。各団体の活動等については、お互いが十分に知らないことが一番の課題ではないか」という意見が出ました。



(裏面) 福祉防災マップ



(表面) 計画の概要版



講座の様子

そこで、校区にある団体を支え合い推進会議で「つずつ取り上げて理解を深め、その団体が抱える課題について話し合うこと」にしました。その第一弾で取り上げた団体が「ふれあい善導寺」です。ふれあい善導寺は、高齢者の見守りやいきいきサロンの運営などを行っている団体です。「長く活動している人も多く、会員の負担が大きくなっていますが、引き継いでくれる担い手の不足が深刻です。また、ふれあい善導寺は自治会や住民にあまり活動が知られておらず、連携しにくいことが課題です」と、赤木さんは話します。こういった課題が見えてきたことから、支え合い推進会議主催で、ふれあい善導寺について周知する講座を開催しました。この講座では、組織概要や課題、活動事例等について説明を行いました。

### ● 中村さん

前計画がしっかり作られていたからこそ、それを土台にした振り返りができ、新たな課題や今後の目標を盛り込んだ計画を策定することができました。会長を務めて4年目。地域活動に参加したことにより、今まで知らなかった地域の良さを知ることができました。先輩達が築いてきた地域活動を今後も大事にしていきたいです。

活動を通して  
感じたこと、  
これからのこと

に気づき、ふれあい善導寺で対応したというケースについて報告がありました。最初は訪問しても会うことが出来なかったそうですが、訪問を重ねるうちに関係性ができ、自宅が散らかっているなどの困りごとに気づいたそうです。最終的には関係機関につないで状況を改善できた、という内容でした。講座の参加者からは「こんな活動をしている人がいることを知らなかった」という感想も聞かれました。自治会からの参加者も多く、自治会に「ふれあい善導寺」を知ってもらう機会になりました。今後は、各自治会のエリアで活動しているふれあい善導寺の会員を各自治会に知ってもらい、連携していくことが目標です。

### ● 金子さん

超高齢社会をどう乗り越えていくかが課題です。個人の情報が取りづらくなったことに加え、女性の会や老人クラブなどの団体も後継者不足で活動が減少してきています。支援を必要とする人の情報をとらえ、共有していく為に、自治会やふれあい善導寺との横のつながりが欠かせないと考えています。

### ● 赤木さん

ふれあい善導寺の次の担い手をどうするかが一番の課題です。今は、会員を辞める場合、その人が次の人を探していますが、今後は自治会と連携して協力してくれる人を増やしていくことも考えています。他校区のやり方も参考にしながら進めていきたいです。



中村 英治さん 金子 美恵子さん 赤木 民恵さん

中村さんは40年間バドミントンを続けています。東久留米バドミントンクラブの部長も務めるほどの腕前です。そのほかにも、釣りや山登りなど多趣味で、もっと時間がほしいとのこと。金子さんは、昔から茶道をずっと続けているそう。着物でお稽古やお茶会に参加すると、気持ちが引き締まるそうです。赤木さんは毎日朝8時からグラウンドゴルフに行かれています。「健康維持が大事!」と話されます。金子さんのご主人もグラウンドゴルフ仲間だそうです。

取材を終えて

善導寺校区支え合い推進会議では、計画を策定する過程で見えた課題に対応するために、各団体の活動を知ることから始め、その団体が抱える悩みなどについて皆で考えていました。取材中、中村さんの口から何度も出ていた「先輩達が築き上げてきた」という言葉からも感じられるように、先輩方の活動想いを尊重している善導寺校区。先代がつないできた校区の様々な活動を絶やさないために、今一度互いのことを知り、一致団結して進もうとしている姿を感じました。

- 支え合い推進会議で、第3次善導寺校区福祉活動計画を策定
- 実際に活動する団体に単年度ごとの評価をしてもらうことにより、校区全体で計画の進捗状況を把握できる
- 計画概要版を「福祉防災マップ」と一体型で作成し、全世帯に配布
- 「ふれあい善導寺」をはじめとした校区団体の課題を共有し、改善策をみんなで考える

## 久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: [heartful@heartful-volunteer.net](mailto:heartful@heartful-volunteer.net)  
HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

つながるスイッチ!!は  
HPでも  
webマガジンでも  
掲載中

久留米市社会福祉協議会

検索

webサイト

[note一つくる、つながる、とどける。]で  
「つながるスイッチ!!」を検索してください!